



東京大学工学部教授 西村 幸夫

西村 幸夫

大分のツーリズムの大きな特徴は、この年報の発行にも見られるように、何かおおきなネットワークが形成されつつあり、みんなが一緒によりよいツーリズムの姿を育めようという姿勢が生まれつつあることそのものだと思います。ふつう、地域のツーリズムの特色という、その地の観光資源の特徴をあげることが思い浮かびますが、たしかにそのような指針の仕方もあるにはあるのですが(なぜなら大分県には魅力的なスポットが多数あるからです)、私が強調したいのは、そうした原石としての資源の豊かさや特色ではなく、それをみんなで大切に、協力の和の中でさらに魅力を増すような仕掛けを大分全体で作らなければならない点です。これは一朝一夕では生み出すことのできない、長年の信頼関係のたまものです。これがすばらしいと思うからです。

観光は交流だということは置てもいいですが、交流にはもうひとつ、地域のツーリズムに関わっているすべてのメンバーの交流があるはずで、地域の魅力をひとりでも多くの来訪者に味わっていただきたいというのが地域に住むものの願いであるとするならば、それはみんなが共通して持つ願いであるはずで、1+1の願望は、お互いが協力し合えるならば2以上にすることができます。それが協団の力というものです。

大分のツーリズムはそのような協団の可塑性を目的の視覚として示すことができる数少ない広域連合です。これはまさしく「まちづくり」なのです。手に手を取って地域の発展におおいに期待しています。それは日本の他の地域の協団の力となるからです。